

ボアソナード記念現代法研究所

【2024年度大学評価総評】

ボアソナード記念現代法研究所では、法史学、社会法、都市法、現代法システム、国際関係、ボアソナード関係資料収集委員会という6分野・12プロジェクトの研究活動が展開されており、その成果も発表されている。2023年度には、各プロジェクトの研究会を、対面・オンライン・ハイフレックスなど様々な形式で開催することを実現し、多様な研究者の参画が可能になったと評価できる。また、客員研究員に対する研究倫理教育を実施した点は適切な取り組みといえる。モンゴルの法曹実務家（憲法裁判所裁判官）が進行している現代法システム論「アジアにおけるドイツ型違憲審査システムの導入と機能」学際的プロジェクトに客員研究員として参加し、韓国大法院の元研究官を交えた関連オンライン研究会を開催するなど、海外研究者との連携も進められている点は評価でき、これらの研究成果が2024年度以降に発表されることを期待する。

これまでの研究プロジェクトは計4冊の研究叢書として発表予定で、すでに2冊が刊行されており、残り2冊の刊行が計画通りに進むことが望まれる。2024年度からは、各プロジェクトの研究成果である叢書の内容の研究所ウェブサイト英文掲載、外部の学会との共同による公開シンポジウムなどが企画されており、こうした活動が研究所の認知度を高め研究成果への注目につながることを期待したい。

大学基準協会の第4期大学基準に基づいた評価項目の充足状況の確認

2024年度自己点検・評価シートに記載された
I 現状分析を確認

すべての評価項目で「はい」が選択されており、充足していることが確認できた。

【2024年度自己点検・評価結果】

I 現状分析

基準1 理念・目的

1.1 大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

1.1①研究所（センター）の理念・目的を明らかにしていますか。	はい
1.1②研究所（センター）の理念・目的を規則等に明示し、かつ教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。	はい
【根拠資料】	
・ボアソナード記念現代法研究所ホームページ (https://www.hosei.ac.jp/gendai-hou/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54)	

基準2 内部質保証

2.1 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。

2.1①研究所（センター）において、研究所長（センター長）及び運営委員会等の権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	はい
2.1②研究所（センター）において、自己点検評価結果を活用して改善・向上に取り組んでいますか。	はい
【根拠資料】	
・法政大学ボアソナード記念現代法研究所規程 ・法政大学ボアソナード記念現代法研究所運営細則	

基準3 教育研究組織

部局による自己点検・評価は実施しない

基準4 教育・学習

部局による自己点検・評価は実施しない

基準 5 学生の受け入れ

部局による自己点検・評価は実施しない

基準 6 教員・教員組織

部局による自己点検・評価は実施しない

基準 7 学生支援

部局による自己点検・評価は実施しない

基準 8 教育研究等環境

8.1 研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。

8.1①「法政大学研究倫理規程」に沿って、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取り組みを行っていますか。	はい
【根拠資料】	
https://www.hosei.ac.jp/application/files/2216/4481/7571/R_leaflet2021_2.pdf 客員研究員に本学で配布されている公的研究費の利用についてのパンフレットを送付し、確認いただいている。	

基準 9 社会連携・社会貢献

9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

9.1①「研究及び社会貢献に関する方針」のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っていますか。	はい
【根拠資料】	
・ボアソナード記念現代法研究所ホームページ https://www.hosei.ac.jp/gendai-hou/public/public/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf540	

基準 10 大学運営

部局による自己点検・評価は実施しない

上記の現状分析結果において、【いいえ】と回答した項目があった場合は、その理由と改善計画について記入してください。

大学基準	【いいえ】と回答した点検・評価項目を記述してください
基準を選択してください	
【いいえ】と回答した理由と、改善の必要がある場合、改善計画について記述してください。	

II 改善・向上の取り組み

1 2023 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2023 年度大学評価結果総評】（参考） 2022 年度の大学評価委員会における評価結果として、コロナ化の厳しい状況の中でも十分な研究活動が行われ、当該研究所の果たすべき使命を果たしていることが高く評価されている。今回の自己点検作業においてもその点は同様に認められ、評価できる。ただ、インターネットやオンラインを活用した国際的、学際的な研究連携についてはなお努力すべき余地があるとの指摘があった。それに対しては、今
--

年度からコロナ対策がある程度緩和されることを踏まえて、対面・オンライン・ハイフレックスなど様々な形式による研究会やシンポジウムを開催し、より充実した研究連携の実現の努力が表明されている。具体的には、研究叢書刊行やオンラインによるシンポジウム開催のための具体的な作業の着手が述べられている。例えばプロジェクトの学際的なアプローチの中で、モンゴルの法曹実務家（憲法裁判所裁判官）を客員研究員として進行している現代法システム論「アジアにおけるドイツ型違憲審査システムの導入と機能」などは特に有望であるとのことで、大きな研究成果が期待される。

また、英語による情報発信についても、具体的な年度を設定して、より充実したものにしていくことが確認され、あわせてその成果が期待できる。

【2023年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

ボアソナード記念現代法研究所ではプロジェクト単位で研究活動を実施している。2023年度は、法学（1）、社会法（1）、都市法（2）、現代法システム（6）、国際関係（2）、ボアソナード関係資料収集委員会（1）という、6分野・12プロジェクトが研究活動を実施し、研究成果を活発に発表した。これらの研究成果として2023年度には2冊の叢書が刊行された。

2023年度は各プロジェクトが対面・オンライン・ハイフレックスなど様々な形式で研究会を積極的に開催した。これらの研究成果は2024年度以降に発表されることが期待できる。2024年度からは英語による情報発信として、各プロジェクトの研究成果である叢書の内容を英文で研究所ウェブサイトに掲載していく。また、2023年度は客員研究員に研究倫理に関するパンフレットを配布するなど研究所として研究倫理教育も実施した。

2022年度の大学評価委員会の評価結果については、運営委員会で報告して情報共有し、指摘事項の改善に向けた検討を進めた。大学評価委員会からの指摘事項にあったインターネットやオンラインを活用した国際的、学術的な研究連携については、国分プロジェクト「アジアにおけるドイツ型違憲審査システムの導入と機能」において韓国大法院の元研究官を交えたオンライン研究会を開催するなどの実績を上げた。2024年度は外部の学会との共同による公開シンポジウムなども企画していく。

2 各基準の改善・向上

基準6 教員・教員組織

6.3 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。

6.3①研究所（センター）内で教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	S（さらに改善した又は新たに取組んだ）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
研究所所属の客員研究員に対して、研究倫理に関するパンフレットを配布するなど研究所独自の研究倫理教育を実施した。また、今後は学内で開催される研究倫理教育やコンプライアンス研修を客員研究員にアナウンスすることとした。		

基準9 社会連携・社会貢献

9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

9.1②社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

III 2023 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準		研究活動
中期目標		<ul style="list-style-type: none"> ・法学・政治学・国際政治学の分野におけるプロジェクト・ベースの高度な研究の推進 ・ボアソナード博士記念研究所として相応しい近代日本における法・政治制度に関する研究の実施
年度目標		<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトごとの研究活動の着実な実施 ・外部研究者との連携等を含む開かれた研究の実践 ・各種資料等の収集・分析(特にボアソナード博士関連の資料)
達成指標		<ul style="list-style-type: none"> ・各プロジェクトにおける研究活動の実施 ・各種資料等の収集・分析作業の実施
年度 末 報 告	執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	研究所が整備したオンライン会議システム等の活用に加えて、対面形式での研究活動もほぼ全面的に再開した。プロジェクトはハイフレックス形式も含めた多様な方法により積極的に研究活動を進めた。
	改善策	—
評価基準		社会連携・社会貢献
中期目標		<ul style="list-style-type: none"> ・研究成果の公開及び情報発信方法等の検討 ・所蔵資料等の公開
年度目標		<ul style="list-style-type: none"> ・研究叢書の刊行 ・公開研究会・シンポジウム等の開催 ・所蔵資料等の整理・公開 ・研究成果の情報発信の方法・内容の検討
達成指標		<ul style="list-style-type: none"> ・研究叢書を4冊刊行 ・公開研究会・シンポジウムを2回程度開催 ・所蔵資料等の整理・公開作業の実施 ・英語での研究成果の情報発信に関する運営委員会での検討
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	刊行を予定した研究叢書4冊のうち、2冊は年度内に刊行でき、残りの2冊も刊行の準備が進んでいる。英語での研究成果の情報発信方法については運営委員会の方針が確定し、2024年度から運用を開始する。所蔵資料等の整理等も順調に進んだ。公開研究会・シンポジウムは開催できなかった。
	改善策	—
【重点目標】 プロジェクトごとの研究活動の着実な実施 【目標を達成するための施策等】 各プロジェクトにおける研究活動の実施（研究叢書の刊行を含む）		
【年度目標達成状況総括】 各プロジェクトはオンライン会議システムも活用して、積極的に研究活動を推進した。研究叢書は年度内に2冊を刊行し、もう2冊も刊行準備が進んだ（2021年度は2冊、2022年度は1冊）。だが、編集作業が年度末に集中したために事務負担が加重となった。今後は刊行スケジュールの前倒しについて、運営委員会等を通じて研究代表者にご協力いただくよう要請する。英語での情報発信強化の方針が確定したことも踏まえ、2024年度以降は研究所ウェブサイトの充実も期待できる。シンポジウムの開催等については、運営委員会等を通じて、引き続きその必要性について共有していきたい。		

IV 2024 年度中期目標・年度目標

評価基準	研究活動
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・法学・政治学・国際政治学の分野におけるプロジェクト・ベースの高度な研究の推進 ・ボアソナード博士記念研究所として相応しい近代日本における法・政治制度に関する研究の実施
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトごとの研究活動の着実な実施 ・外部研究者との連携等を含む開かれた研究の実践 ・各種資料等の収集・分析(特にボアソナード博士関連の資料)
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・各プロジェクトにおける研究活動の実施 ・各種資料等の収集・分析作業の実施
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・研究成果の公開及び情報発信方法等の検討 ・所蔵資料等の公開
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・研究叢書の刊行 ・公開研究会・シンポジウム等の開催 ・所蔵資料等の整理・公開 ・研究成果の情報発信の運用開始
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・研究叢書を4冊刊行 ・公開研究会・シンポジウムを2回程度開催 ・所蔵資料等の整理・公開作業の実施 ・英語での研究成果の情報発信
<p>【重点目標】 プロジェクトごとの研究活動の着実な実施</p> <p>【目標を達成するための施策等】 各プロジェクトにおける研究活動の実施（研究叢書の刊行を含む）</p>	